

目 次

□巻頭言 「バランス」雑感……………柏 忠 二/1

□建設機械化 30 年の思い出  
 本協会発足当時の建設機械化の記録……………伊 丹 康 夫/3  
 沖縄米軍基地建設の機械化施工の思い出……………中 尾 秀 也/7  
 佐久間ダムにおける  
 大規模機械化施工実現の経過……………野 瀬 正 儀/10  
 場所打ち杭のルーツをたどる……………高 岡 博/14  
 建設機械化研究所発足当時の回顧……………大 橋 秀 夫/18  
 建設機械の輸出振興の足どり……………坂 根 正 弘/21  
 高 橋 健 治/21  
 石油ショック前後の思い出……………上 東 広 民/24  
 振動規制法制定の背景……………北川原 徹/27

□随 想 創 設 余 話……………加 藤 三重次/30

グラビヤ—建設工事 30 年の歩み

□座談会  
 建設機械化の将来を考える……………/33

□社団法人日本建設機械化協会の事業活動  
 社団法人日本建設機械化協会定款……………/43  
 各部会・専門部会・建設機械化研究所の動き……………/45

□部会研究報告  
 原位置土質・岩質の調査研究  
 ………………施工技術部会原位置土質・岩質測定研究委員会/58

□昭和 54 年度官公庁の事業概要  
 最近の経済情勢と建設省所管事業の動向……………森 悠/62

□新機種ニュース……………調 査 部 会/72

□整備技術  
 常識保全……………整備技術部会/76

□ISO 規格紹介  
 建設機械の安全性の必要条件および  
 居住性に関する ISO 標準規格 (16)-1……………I S O 部 会/79

□統 計  
 建設工事受注額・建設機械受注額・建設機械卸売価格の推移  
 ………………調 査 部 会/83

行事一覧……………/84

編集後記……………(田中・大平)/86

◀表紙写真説明▶

住友 FMC Link-Belt  
 機械式トラッククレーン HC-258 J  
 住友重機械建機販売株式会社

国内、国外を問わず工事はますます大型化し、一度につり上げるワンブロックの重量は大きく、しかも高揚程が要求されている。本機はこの要求に応じて開発されたもので、最大つり上げ荷重 180 t という国内で車検登録が可能とされる最大のトラッククレーンである。車検姿勢は既存の HC-108 BS, HC-248 J と同様にクレーン用台車方式を採用し、クレーン部とトラック部は独自の機構により短時間に、しかも簡単に着脱することができる。

◀主要仕様▶

最大つり上げ能力……………	180 t
基本ブーム長……………	12.2 m
最長ブーム長……………	94.5 m
ブーム+ジブ……………	85.3 m+21.3 m (最長)
キャリア型式……………	西ドイツ FAUN 社製 KF 170
作業時重量……………	130 t (基本ブーム付)